

ロボカップ ジャパンオープン 2008 沼津開催

2008年5月3日～5日、静岡県・沼津市のキラメッセぬまづにて、「ロボカップジャパンオープン 2008 沼津」が開催された。

梓 みきお / 三月 兎

外光の入る会場に苦しんだ3日間

今年の会場「キラメッセぬまづ」は、外光が透けるテントのような天井だった。そのため、一日のうち朝/昼/夕方では会場の明るさが変わるほか、晴れた日には太陽を雲がさえぎるだけで一気に明暗が変わってしまう。当然、カメラでロボットが周囲を把握しているリーグ(小型・中型・4足・ヒューマノイド)にとっては、試合中にも条件が刻々と変化する厳しい環境になっており、画像認識のシビアさをあらためて思い知らされた。参加者の中には、「試合開

始時点で合わせても、試合中にコロッと変わってしまうので、正直お手上げ」といった、あきらめたような言葉も多く聞かれた。

これが勝敗優先の競技会であれば、やれ条件を均一にしろだの試合は無効だのという話になるかもしれないが、実際には「2050年には屋外で試合するのが前提なのだから、今回の条件を言い訳にはいけない」というコメントをくれるチームがほとんどだった。言葉ではあきらめていても、実際に現場に出れば何とか対応できるように、ギリギリまで調整する姿が会場中で見られた。世界大会を経験したチームに

聞いてみると、世界大会ではどんな会場なのかを下見できるわけでもないので、なるべく多くの状況に対応できるようにするのが重要だという。その意味でも、今回の厳しい条件は各チームに貴重な経験とデータをもたらしたのかもしれない。



キラメッセぬまづの天井。

ロボカップサッカー

ヒューマノイドリーグ

観客の注目度も、他リーグを含めた参加者の注目度も高いのがヒューマノイドリーグ。今年は昨年のルールからさまざまな点で変更が加えられた。代表的なものを挙げても、

- ・ TeenSize の最低身長が 100cm へに。
- ・ KidSize の試合フィールドを TeenSize と同じに (600cm x 400cm)。
- ・ KidSize の試合は 3 対 3 で行う。

と、かなりのもの。しかも、昨年まで TeamOSAKA を筆頭に複数のチームが採用していた、360 度が見える全方位カメラはもちろん、複数のカメラを使用して「一度に」180 度以上を認識してはいけないということになったのだ。人間が首を振って確認するように、カメラを移動させて 180 度以上の視野を認識することは OK だ。

まず、Teen size (100cm ~ 160cm) は、TeamOSAKA に加えて「CIT Brains

(千葉工業大学 / 関西学院大学)」と「STEPKIT (金沢工業大学)」が参戦。テクニカルチャレンジでは TeamOSAKA の「Vstone TichnoR」が唯一ドリブルを成功させ、徒競走でも CIT Brains に勝利。PK にかわって行われたドリブル & キックでは、CIT Brains と 0-0 で引き分け、全競技で 1 位を獲得した。

KidSize は会社のサークルという「波動」を含む 7 チームが参加。こちらも TeamOSAKA が快進撃を続けたが、3on3 の予選リーグを無失点で勝ち



VISION 4G 「改」。襟元の板は胸カバーの色を見ないためか？

上がってきた TeamOSAKA に対し、ライバル CIT Brains が決勝で一時 2-2 の同点まで迫る。延長戦となって動作が安定しなくなったスキに 2-5 と突き放され、最後は負けてしまったものの、CIT Brains も「絶対王者」として君臨していた TeamOSAKA に肉薄するところまできていることが証明された結果となった。



3on3 の決勝では一時 2-2 の同点に。CIT Brains は昨年に続いて「はじめロボット 17 号機」と新型の「はじめロボット 30 号機」を使用。